

# 健康をテーマに地域活性化 「健康ウォーキング」

令和2年度（2020年度）  
地域活性化コーディネーター養成プログラム  
特別講座B（選択）「地域活性化の理論と実践」

講座担当：井上晶子、古本泰之、石井博之  
受講生8名（作成：井上と受講生・大久保）

## 目的

- 地域活動に必要な基礎知識・技法を習得し、地域活動のスキルアップを目指す

## 目標

- 高齢社会における「健康」づくり+地域の魅力づくり
- 住民参加の「健康ウォーキング」を実行

## 授業構成と方法：アクティブラーニング

- 保健学部、総合政策学部、外国語国学部、地域交流推進室・東武トップツアーズ職員の連携
- アクティブラーニング方式による授業を計画していた
- COVID-19対策のため、技術習得的な講座を除いてはZOOMによるオンライン授業中心に変更
- 「健康ウォーキング」の実施に向けた準備段階（心拍計操作、下見・試行等）で学部生5名の参加協力

## 経過と結果

- 準備や作業は受講生の自主性と自律性にゆだねる
- COVID-19対策のため対面授業の制限で、受講生同士や教員との交流が大幅に制限された
- 受講生リーダーからメールの情報発信、意見交換、検討
- 感染者急増の状況下で、2020年11月28日の「健康ウォーキング」の実行は断念した

## 振り返り

- COVID-19の状況で計画変更を余儀なくされた授業は、全体の流れがつかみづらいものとなった
- 対面型授業を前提とするアクティブラーニング方式は、計画と実際に大きなギャップが生じた
- 前年度の「みたか知りたいウォーク」を経験した受講生と新受講生とでは、授業の理解度と関与の意識に大きな差が見られ、修正が非常に困難となった
- 全員がZoomによるオンライン授業を可能となったのは、地域交流課職員のきめ細やかな対応による努力が大きい

## アクティブラーニング・プラスによる創造的な地域力を目指して

- 個人の地域活動に対する関与の深まりを推進する  
アクティブラーニング・プラス：学びから更なる活動への原動力

- ① 教員と受講生連名で、事例報告論文「高齢者向けのアクティブラーニング科目の成果と課題」を『観光ホスピタリティ教育』（日本観光ホスピタリティ教育学会）に投稿し掲載された（査読付き）。
- ② 受講生2名と教員が「三鷹市まちづくり総合研究所研究員」として、「地域活性化に寄与する生涯学習に関する研究と実践」をテーマに調査研究への取り組みを開始した。
- ③ 受講生が学生からの依頼で地図製作の技術指導、観光ガイドに関する情報提供などを行っている。



地域力へ

